

# 協働



## 「心が変われば・・・人生が変わる」

校長 西村 元一

夏休みを終え、大きな事件・事故の報告はなく始業式を迎えることができました。感染症も危機的状況を脱し、今後も基本対策を徹底して教育活動にあたっていきます。

さて、始業式ではフィギュアスケートの宇野昌磨選手の話をしました。宇野選手は2018年平昌五輪で銀、今年の北京五輪で銅と2大会連続でメダルを獲得しました。日本では羽生結弦選手に続き2人目の快挙です。そんな宇野選手ですが、平昌と北京の間の4年間にどん底を経験し、心の中に大きな変化が起こっていたそうです。

それまでの宇野選手は、メダルを取れば2位でもそれなりに納得し、ミスを恐れての守りのスケートだったそうです。ところがある大会で、宇野選手をお手本としている若手の鍵山優真選手が2位に入り、宇野選手はメダル圏外でした。宇野選手は、情けなさとともに他の選手に置いて行かれているという恐怖を感じたそうです。

心に変化が起きます。ミスに対する恐怖心を払拭し、失敗は自分の伸びしろ、失敗の中に成長のヒントがあると思えるようになったそうです。演技プログラムは、最高難度のジャンプを飛べるだけ飛ぶという挑戦的な内容に変更しました。日々の練習も、守りから挑戦の姿勢が変わります。努力が実を結び、世界フィギュアで初の世界一になったときのインタビューも非常に印象的でした。「世界一を投げ捨てても、また新しいことに挑戦したい。楽しみでならない。」成果主義の呪縛から解放され、自分の成長を楽しむポジティブ思考に変身を遂げたのです。

「心が変われば態度が変わる、態度が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば人格が変わる、人格が変われば運命が変わる、運命が変われば人生が変わる」。これは野球界の名選手であり名監督の野村克也さんや元メジャーリーガーの松井秀喜さんの座右の銘だそうです。今後の宇野選手の活躍が楽しみです。

さて、3年生にとっては厳しい時期に入ります。たとえば、「テストで結果が出ない、志望校の変更を余儀なくされる、志望校の受験に失敗する」などがあっても、大切なことは受験にどう取り組み、うまくいかないときどう自分に向き合うかです。宇野選手の言葉を借りれば、うまくいかないときこそ成長のチャンスです。そして最も大切なことは、卒業後の3年間の過ごし方です。進路先がどこかではなく、卒業後の3年間で有意義に過ごした者が勝ちです。皆さんを心から応援しています。